



『新しい歌を主に歌え
世界よ神に向かって喜び歌え
神の名をたたえて歌い
日ごとに救いを告げよ』
(詩編 96)



お知らせ

1月のミサ
14(日)第3日曜日
28(日) 第4日曜日

- ☆1/1 (月)
正月 みことばの祭儀
今年のお雑煮パーティーは中止です
- ☆1/7 (日)
みことばの祭儀後クリスマス飾り片付け
- ☆1/14 (日) 昨年のお枝の回収、開始
(今年の灰の水曜日は2/14です)
- ☆「2029年北山原殉教祭」実行委員
酒田教会代表は柿崎圭介さんが就任します

1月スケジュール

1日 (月) 神の母聖マリア
正月 み言葉の祭儀

7日 (日) 主の公現
みことばの祭儀
クリスマス飾り片付け

14日 (日) 年間第2主日
ミサ
話し合い

21日 (日) 年間第3主日
みことばの祭儀
教会内清掃

28日 (日) 年間第4主日
ミサ
ミサ・みことばの祭儀 11:30a.m.

祈禱の使徒
教皇の意向
多様性という賜物
日本教会の意向
すべての命を守る

1月朗読当番

1日 (月) 神の母 マリア	祭壇奉仕	柿崎圭介	21日	祭壇奉仕	荻原 徹
	第1朗読	折坂志津枝		第1朗読	折坂志津枝
	第2朗読	高橋泉		第2朗読	今野幸子
7日 主の公現	祭壇奉仕	西村浩太郎	28日	先唱	西村浩太郎
	第1朗読	今野幸子		第1朗読	高橋泉
	第2朗読	ヤクナ		第1朗読	佐藤浩子
14日	先唱	柿崎圭介			
	第1朗読	斎藤純子			
	第2朗読	佐藤浩子			





2024 年新年の挨拶

アントニオ 柿崎 圭介

新年あけましておめでとうございます。

新年早々厳しいお話。

『神様は厳しい方?』

私は、聖書を読んでいて、時々神様は厳しいことを要求してくるなあ~と思うことがあります。例えば、マタイ (25・1-13)

天の国を、花婿を迎える 10 人の乙女たちのたとえ話で説明しています。

花婿を迎えに行く際に花嫁たちを、油を用意しなかった 5 人の愚かな花嫁と、油を用意した 5 人の賢い花嫁に分けます。花婿たちが予定より遅れて会場に到着したので、油を用意していなかった 5 人の愚かな花嫁たちは、花婿が到着した時火を灯すことが出来ず、花婿を婚姻の席に迎え入れることが出来ません。

その時、「目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」と戒められます。

マタイ (25・14-30)

天の国を、ある人が旅行に出かける時に、僕 (しもべ) たちに財産を預けるたとえ話でも説明しています。

その人は、3 人の僕たちにそれぞれ、5 タラントン、2 タラントン、1 タラントン預けます。

5 タラントン預かった僕は、商売をして倍にします。2 タラントン預かった僕も倍にして儲けます。しかし 1 タラントン預かった僕は、穴を掘り、その金を地の中に隠してしまいます。そこで、1 タラントン預かった僕は、こう戒められます。「この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう」

マタイ (25・31-46)

イエスは弟子に、羊飼いが羊と山羊を右と左に分けるように、国の民も二つに分けるようにいいます。右側にいる人に対して『お前たちは、私が飢えていたときに食べさせ、のどが渴いたときに飲ませ、旅した時に宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。』と言って、国を受け継ぐようにと祝福します。

左側にいる人に対しては、そのようなことをしてくれなかったと戒めます。そして次のように言います。「この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである」

このように聖書では、時々厳しい言葉で戒めます。

イエスが言っていることは分かるが、ちょっと厳しすぎないかな~もうちょっと優しい神様だといいたけど。とついつい愚痴を言いたくなります。

しかし先日、ある方たちの言葉でふっと思ったのですが、私と神様の関係は、親子の关系到似ているような気がしました。

親は、愛情いっぱい子育てをし、子どもに対して出来るだけ優しく対応しようと心掛けます。しかし、良い子になって欲しいという願いから時々厳しい躰もします。決して憎しみからやっているわけではありません。しかし、子どもたちは、どんな受け止め方をするのでしょうか?

『こんなに厳しくするのは、本当は、親は、自分の事を好きではないのではないのか』と勘ぐってしまいます。

子どもの時は、親の本当の気持ちは理解し難いものなのです。

しかし、その子供も大人になり、結婚し子どもが生まれ子育てするようになる

「なるほどな~。あの時自分を叱ったのはこんな理由だったのか」と理解できるようになります。そして感謝もしてくれます。

子どもは、いずれ大人になるので、子どもの時の厳しさを後々理解できます。しかし、私たちは、神様にはなれませんので、神様の厳しさはいつまで経ってもなかなか理解できません。

理解はできませんが、いいことであることは間違いない。それは確かです。

『説教のなかの厳しさは、神様が私たちを愛しているからこそなのでは・・・』

私は死ぬまで子供なので、本当のことは分からないでしょう。

本当のことなど分からなくてもいいから、神様の言っていることを信じて行こう。

最近、私はこんな受け止め方をしています。

祝 酒田教会献堂56周年

11月26日

献堂56周年記念ミサを挙げて頂きました。

ミサ後、皆さんとお食事会を開催いたしました。

コロナも少しずつ収まってきて、今回のように食事会になりました。日常がようやく戻ってきたような気が致します。



『マリア様は天使のお告げをよく聞き入れました
そして、キリスト様のお母様になりました』

「聞く」ことの贈り物

「耳に壁あり」 えっ？ なんですって…

「壁に耳あり」秘密でも漏れやすい それもそうだが
現代社会 いや現代人の多くは「聞く」耳がない。
耳があっても 聞こうとしない 耳がふさがれている。

結局「耳に壁あり」となるわけ

ちょっと心配事があり悩んでいる どうすればいいのか 心細く感じる
だれかと話したい だれかに聞いてもらいたい

自信がない 元気がなくなった やがて生きる気力がうすれるか
聞いてくれる人が欲しい だれかいませんか

相談相手ではなくても ただ聞いてもらいたいだけ それだけ

聞いてくれれば それでいい 後はなににもいらない

現田尾人の中には 聞こえるが 聴かない人が多い

BGMを聞いているかのように 聞いている 真剣に聴いていない

相手の立場を理解していない 理解しようとしもない ただBGMのように聞こえるだけ

妻の話 夫の話 子供の話 友の話 若者の話 お年寄りの話

みんな話したい事があるが 「聴く」人がいない

「聴く」には補聴器などはいらない ポリュームを大きく上げなくてもいい

音量の問題じゃない 心の問題だ 「心眼」があるように 「心耳」こころの耳もある

「聴く」ということになる

自分のことであるかのように 真剣に こころをこめて 相手の話を そのまま

静かに 落ち着いて 忍耐強く 丁寧に 尊敬をもって愛をこめて 聴く

これだけだが これこそが すてきなプレゼントとなる。

祈りましょう

主よ、口を一つ、

耳を二つ下さったことは

意味深いでしょう

そんなに発言出来なくても

どうか、私を

「聴く」人にして下さい

(ペトロ・ボン・エッセン著「お金のいらないクリスマスプレゼントより」)

